



平成27年10月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年6月12日
上場取引所 東

上場会社名 ベルグアース株式会社
 コード番号 1383 URL <http://www.bergearth.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山口 一彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長 (氏名) 越智 正勝 (TEL) 0895-20-8231
 四半期報告書提出予定日 平成27年6月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年10月期第2四半期の連結業績 (平成26年11月1日～平成27年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年10月期第2四半期	1,817	—	△73	—	△70	—	△50	—
26年10月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 27年10月期第2四半期 △51百万円(—%) 26年10月期第2四半期 —百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年10月期第2四半期	△40.06	—
26年10月期第2四半期	—	—

(注) 1. 平成27年10月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年10月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年10月期第2四半期	3,616	1,165	31.4
26年10月期	—	—	—

(参考) 自己資本 27年10月期第2四半期 1,134百万円 26年10月期 —百万円

(注) 平成27年10月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年10月期の数値は記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年10月期	—	0.00	—	10.00	10.00
27年10月期	—	0.00	—	—	—
27年10月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年10月期の連結業績予想 (平成26年11月1日～平成27年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,360	—	88	—	94	—	61	—	48.04

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 平成27年10月期第1四半期より連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 1社(社名) 青島芽福陽園芸有限公司、除外 1社(社名) -

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年10月期2Q	1,269,900株	26年10月期	1,269,900株
27年10月期2Q	64株	26年10月期	64株
27年10月期2Q	1,269,836株	26年10月期2Q	1,269,850株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	13
(セグメント情報等)	13
(重要な後発事象)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

第1四半期連結累計期間から四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度末との比較分析は行っておりません。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円安・株高を背景に輸出型企業や大企業を中心に業績は回復してきたものの、消費税率引き上げの影響や円安による輸入原材料価格の上昇の影響等により、国内全体での景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社の属する農業分野におきましては、農家の高齢化や後継者不足、国内市場の縮小、TTP交渉の影響等、依然として厳しい状況が続いておりますが、6次産業化の推進、農産物の輸出拡大、大企業や異業種による農業生産法人設立や植物工場への参入、更には若手農業者の規模拡大等、農業の成長産業化への気運が高まっており、変革の時代へと大きく舵をきっております。

このような状況のもと、当社グループは、引き続き野菜苗市場のシェア拡大を中心戦略とし、生産能力の拡大と生産性の向上に努めると共に、中国青島芽福陽園芸有限公司の子会社化によるグローバル展開の開始や、家庭園芸マーケットへの販路拡大、閑散期商品開発等の為に園芸小売店舗運営会社ファンガーデン株式会社が一号店を3月にオープンさせました。このように事業のグローバル化、多角化を積極的に進めてまいりました。

上記の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,817,383千円、営業損失は73,697千円、経常損失は70,800千円、四半期純損失は50,863千円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高が含まれております。

(野菜苗生産販売事業)

当事業部門におきましては、茨城農場の拡張効果に加え、パートナー農場(委託先)の増加等により生産能力の拡大を継続的に進めてまいりました。また、新商品の開発や品質の向上を目的とした研究開発活動につきましても継続的に進めております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,638,084千円、セグメント利益(営業利益)は118,586千円となりました。

品目分類別の売上高は次のとおりであります。

品目分類	売上高(千円)	前年同四半期比(%)
トマト苗	577,398	—
キュウリ苗	443,864	—
ナス苗	212,042	—
スイカ苗	165,215	—
メロン苗	131,076	—
ピーマン類苗(注)	45,582	—
その他	62,906	—
合計	1,638,084	—

(注) ピーマン類として、ピーマン・パプリカ・シシトウ・トウガラシをまとめて表示しています。

規格分類別の売上高は次のとおりであります。

規格分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
ポット苗 (7.5cm～15cm)	885,064	—
当社オリジナル(アースストレート苗、ヌードメイク苗、e苗シリーズ等)	461,840	—
セル苗 (288穴～72穴)	280,600	—
その他	10,579	—
合 計	1,638,084	—

(注) ポット苗は、ポリエチレンのポット(ポリ鉢)で育苗した一般的な苗であり、ポットのサイズが大きくなると苗のサイズも大きくなります。セル苗は、小さな穴が連結した容器(セルトレー)で育苗した苗であり、穴数が増えると苗のサイズが小さくなります。

納品地域分類別の売上高は次のとおりであります。

納品地域分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
北海道・東北	251,824	—
関東	624,542	—
中部・甲信越・北陸	285,352	—
近畿・中国	295,695	—
四国	89,750	—
九州・沖縄	90,919	—
合 計	1,638,084	—

(流通事業)

資材部門におきましては、培養土等を主力商品として販売した結果、売上高は50,211千円となりました。農産物部門におきましては、愛媛県産の柑橘及び鹿児島県産のキャベツを主力商品として販売した結果、売上高は33,282千円となりました。コンビニ部門の売上高は83,500千円となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における流通事業全体の売上高は166,994千円、セグメント損失(営業損失)は12,423千円となりました。

(海外事業)

当事業部門におきましては、中国山東省にて野菜苗及び花苗の生産、鉢花(シクラメン)の生産、トマト及びアスパラガス等の青果物の生産を中心とした施設園芸を展開しております。

当第2四半期連結累計期間の売上高は14,082千円、セグメント損失(営業損失)は9,227千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は3,616,871千円、負債は2,451,511千円、純資産は1,165,360千円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は416,679千円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、△183,473千円となりました。これは、税金等調整前四半期純損失△70,263千円、減価償却費75,881千円、売上債権の増減額△333,261千円、たな卸資産の増減額△137,024千円、仕入債務の増減額232,622千円等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、△105,691千円となりました。これは、有形固定資産の取得による支出△77,067千円、関係会社株式の取得による支出△30,000千円等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、415,375千円となりました。これは、短期借入れによる収入500,000千円、短期借入金の返済による支出△150,000千円、長期借入れによる収入155,000千円、長期借入金の返済による支出△102,008千円、少数株主からの払込みによる収入25,000千円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年10月期の連結業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間において概ね計画通り推移していることから、平成26年12月12日に公表した業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第2四半期連結累計期間において、青島芽福陽園芸有限公司を子会社化したことに伴い、連結の範囲に含めております。また、平成26年3月に設立したベルグ福島株式会社につきましても、特定子会社の異動には該当しておりませんが、当第2四半期連結累計期間より連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

当社は第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な項目は以下のとおりです。

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社

連結子会社の数	2社
連結子会社の名称	青島芽福陽園芸有限公司、ベルグ福島株式会社

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社

持分法を適用した関連会社の数	1社
持分法を適用した関連会社の名称	ファンガーデン株式会社

(2) 持分法を適用しない関連会社

持分法を適用しない関連会社の数	2社
持分法を適用しない関連会社の名称 (持分法を適用しない理由)	株式会社九重おひさまファーム、四万十あおぞらファーム株式会社

四半期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金等(持分に見合う額)に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性が乏しいため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の決算日に関する事項

連結子会社のうち、青島芽福陽園芸有限公司の決算日は12月31日であります。

四半期連結財務諸表の作成にあたっては、同社の3月31日を仮決算日とする四半期財務諸表を使用し、四半期連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 関連会社株式

移動平均法による原価法

② その他有価証券

(a) 時価のあるもの

四半期決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

(b) 時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

① 商品

主に売価還元法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法）

② 製品・仕掛品・原材料・貯蔵品

総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法）

(3) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。ただし、建物（建物附属設備は除く）については、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	10～38年
構築物	10～40年
機械及び装置	7～17年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当四半期連結累計期間に負担すべき支給見込額を計上しております。

(5) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、四半期連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産、負債、収益及び費用は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

5年間の定額法により償却しております。

(7) その他四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間
(平成27年4月30日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	420,279
受取手形及び売掛金	1,193,540
商品及び製品	11,727
仕掛品	158,455
原材料及び貯蔵品	101,472
その他	62,780
貸倒引当金	△1,164
流動資産合計	1,947,092
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物(純額)	906,711
機械及び装置(純額)	95,257
土地	477,187
その他(純額)	19,619
有形固定資産合計	1,498,776
無形固定資産	
のれん	10,715
その他	37,023
無形固定資産合計	47,739
投資その他の資産	123,263
固定資産合計	1,669,779
資産合計	3,616,871

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間
(平成27年4月30日)

負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	621,502
短期借入金	600,000
1年内返済予定の長期借入金	196,918
未払金	211,294
未払法人税等	3,904
未払消費税等	2,364
賞与引当金	47,000
その他	39,314
流動負債合計	1,722,297
固定負債	
長期借入金	679,059
資産除去債務	26,601
その他	23,552
固定負債合計	729,213
負債合計	2,451,511
純資産の部	
株主資本	
資本金	331,494
資本剰余金	241,494
利益剰余金	554,800
自己株式	△100
株主資本合計	1,127,687
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	5,951
為替換算調整勘定	435
その他の包括利益累計額合計	6,387
少数株主持分	31,285
純資産合計	1,165,360
負債純資産合計	3,616,871

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年11月1日 至平成27年4月30日)
売上高	1,817,383
売上原価	1,407,059
売上総利益	410,323
販売費及び一般管理費	484,021
営業損失(△)	△73,697
営業外収益	
受取利息	135
受取配当金	500
受取手数料	2,156
補助金収入	7,071
その他	2,831
営業外収益合計	12,696
営業外費用	
支払利息	2,477
持分法による投資損失	6,998
その他	323
営業外費用合計	9,798
経常損失(△)	△70,800
特別利益	
受取保険金	68
持分変動利益	482
特別利益合計	551
特別損失	
有形固定資産除却損	14
特別損失合計	14
税金等調整前四半期純損失(△)	△70,263
法人税、住民税及び事業税	970
法人税等調整額	△16,806
法人税等合計	△15,835
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△54,427
少数株主損失(△)	△3,563
四半期純損失(△)	△50,863

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)	
当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年11月1日 至 平成27年4月30日)	
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△54,427
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	2,180
為替換算調整勘定	697
その他の包括利益合計	2,878
四半期包括利益	△51,549
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△48,247
少数株主に係る四半期包括利益	△3,302

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間
(自平成26年11月1日
至平成27年4月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△70,263
減価償却費	75,881
のれん償却額	1,190
貸倒引当金の増減額(△は減少)	36
賞与引当金の増減額(△は減少)	4,000
受取利息及び受取配当金	△635
補助金収入	△7,071
受取保険金	△68
支払利息	2,477
為替差損益(△は益)	△754
持分法による投資損益(△は益)	6,998
持分変動損益(△は益)	△482
有形固定資産除却損	14
売上債権の増減額(△は増加)	△333,261
たな卸資産の増減額(△は増加)	△137,024
仕入債務の増減額(△は減少)	232,622
未払金の増減額(△は減少)	74,830
未払消費税等の増減額(△は減少)	△32,080
その他	10,611
小計	△172,980
利息及び配当金の受取額	635
利息の支払額	△2,682
補助金の受取額	5,671
保険金の受取額	68
法人税等の支払額	△14,186
営業活動によるキャッシュ・フロー	△183,473
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△2,300
有形固定資産の取得による支出	△77,067
無形固定資産の取得による支出	△1,523
関係会社株式の取得による支出	△30,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	7,437
保険積立金の積立による支出	△1,938
その他	△299
投資活動によるキャッシュ・フロー	△105,691

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間
(自 平成26年11月1日
至 平成27年4月30日)

財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	500,000
短期借入金の返済による支出	△150,000
長期借入れによる収入	155,000
長期借入金の返済による支出	△102,008
少数株主からの払込みによる収入	25,000
配当金の支払額	△12,425
その他	△190
財務活動によるキャッシュ・フロー	415,375
現金及び現金同等物に係る換算差額	918
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	127,128
現金及び現金同等物の期首残高	288,550
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,000
現金及び現金同等物の四半期末残高	416,679

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

1. 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、出資持分を取得した青島芽福陽園芸有限公司を連結の範囲に含めております。また、ベルグ福島株式会社については、今後重要性が増すと考えられるため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

2. 持分法適用の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、ファンガーデン株式会社については、四半期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)に重要な影響を及ぼすため、持分法適用の範囲に含めております。

(セグメント情報等)

当第2四半期連結累計期間(自平成26年11月1日 至 平成27年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	野菜苗生産 販売事業	流通事業	海外事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,636,306	166,994	14,082	1,817,383	—	1,817,383
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,778	—	—	1,778	△1,778	—
計	1,638,084	166,994	14,082	1,819,161	△1,778	1,817,383
セグメント利益又は損失(△)	118,586	△12,423	△9,227	96,936	△170,633	△73,697

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△170,633千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

(重要な後発事象)

連結子会社の増資

当社の連結子会社であるベルグ福島株式会社は、平成27年3月30日開催の臨時取締役会の決議に基づき、以下のとおり第三者割当増資を実施いたしました。

- | | |
|----------------------|-----------------|
| (1) 株式の種類 | 普通株式 |
| (2) 発行株式数 | 2,500株 |
| (3) 1株の発行価額 | 50,000円 |
| (4) 発行価額の総額 | 125,000千円 |
| (5) 払込期日 | 平成27年5月29日 |
| (6) 割当先 | 農林水産業投資事業有限責任組合 |
| (7) 増加した資本金及び資本準備金の額 | |
| ① 増加した資本金 | 62,500千円 |
| ② 増加した資本準備金 | 62,500千円 |
| (8) 資金の用途 | 設備資金 |
| (9) 当社の持株比率 | |
| ① 増資前 | 80% |
| ② 増資後 | 40% |